

煙突山 歴史継承を

新居浜南高生116人

公害克服 野外活動で学ぶ

別子銅山の旧山根製煙所の煙突が残り「煙突山」として新居浜市



旧山根製煙所の煙突前で別子銅山の歴史を学ぶ新居浜南高生

民に親しまれる同市角野町新田町3丁目の生子山（しょうじやま）で8日、新居浜南高校の2年生116人がフィールドワークを行い、産業遺産を継承する活動を学んだ。山の整備に取り組む市民団体「えんとつ山

倶楽部」のメンバーを講師に、2015年から実施。生徒らは煙突のある広場まで登り、倶楽部の妻鳥俊彦会長（70）から説明を受けた。妻鳥さんは、1888年に完成した製煙所が煙害で7年後に閉鎖された経緯、住友各社が公害克服や植林に取り組んだ歴史を紹介。「近代化産業遺産が残る街に誇りを持つてほしい」と伝えた。銅山の歴史を学び、発信する同校の魅力a部ユネスコ部の三宅奏那さん（17）は「地域の人や外国人観光客にも別子銅山の魅力を伝えたい」と話していた。（小沢涼乃）